

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ポカラボット			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 12日		～	2025年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58名	(回答者数)	54名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 12日		～	2025年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化されていない	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズ、季節感など様々な情報を収集し利用者の特性を考慮しながら、柔軟に活動内容を考えていくように工夫をしている。 ・利用者の希望によって固定のプログラムを組んでいるが、利用者のニーズや状況の変化に応じて、プログラムの見直しや変更など発展させていくよう工夫している。 ・プログラム作成時には、利用者個々の課題やニーズに合わせて内容やチーム分けをして、固定化させないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く職員から意見をもらい、常に新しい情報を得る仕組みを考えていく。 ・活動の目的や意義などが活動に反映され、職員間で確実に共有できるようにしていく。 ・今後も、将来を見据えた視点に立ち、こどもの年代に応じて必要な活動を組み合わせていく。 ・こどもの意見を取り入れてこどもが主体的に参加できる活動を充実させていく。 ・こどもが自己選択、自己決定できるよう機会を様々な場面で設けていく。
2	保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の送迎時に活動を報告すると同時に、利用者の課題や今後の支援についても共有するように努めている。 ・成長段階で出てくる課題に対して、様々なツールを活用して保護者と情報を共有し、支援の方向性についても話し合っている。 ・気づいたことや相談ごとなどを保護者と共有し、保護者の意見を参考にして支援の方向性を決めている。 ・イベント、Instagramなどを利用し、日頃のこどもの成果を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や面談、電話などあらゆる手段を活用し、利用者の発達や課題の共有や支援の方向性について保護者と活発な意見交換ができる仕組みを整えていく。 ・定期的に保護者が気軽に事業所に立ち寄れるようなイベントなどを企画していく。
3	生活空間の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに部屋をわけ、活動場所を分散させてスペースの確保を工夫をしている。 ・こどもの特性、職員の特性を考慮して活動の工夫をすることで、空間の確保をしている。 ・机や椅子の配置場所などを工夫して空間の構造化を図り、空間の使い分けが分かりやすくなるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性をしっかりと把握したうえで、利用者同士が適切に距離を保ちながら活動できるような活動内容を考えていく。 ・清掃活動など地域に貢献できるような活動を行うなど活動場所の工夫をして空間を上手に活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業所運営	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けた情報発信の少なさ。 ・地域行事等への参加ができていないこと。 ・地域の方を招待する等のイベントが行えていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公共施設等を利用したり、作品展示を依頼するなどして情報を発信できる努力をしていく。 ・地域の行事(まつり・防災活動など)にもできる限り参加をしていき、地域との繋がりを強化していく。 ・事業所が開催するイベントに地域の方々を招待するなどして、事業所の理解を深めてもらえるような取り組みを考えていく。
2	保護者の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者も参加できるイベントを開催しているが、イベント内で保護者同士の交流が図れるような場が作れていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が気軽に参加できるようなイベントを企画し、企画内で交流がうまれるようにするなど、様々な取り組みも行っていきたい。